

横浜国立大学工学部物質工学科及び理工学部化学・生命系学科内工学系同窓会

【No.14号の内容】

- ❖ 2021年度の活動概要について
- ❖ 横浜三工会の新体制の提案について
- ❖ 卒業生だより
- ❖ 研究室紹介
- ❖ 理工系学部創立100周年記念事業
- ❖ 活動報告
- ❖ 本会教員の異動について
- ❖ OB/OG役員、学生役員の募集



上) 化工・安工棟
左) 羽沢横浜国大駅
(2019年11月30日オープン)

2020年度～2021年度の横浜国立大学の現状と本会の活動について

2020年度は新型コロナウイルスのため春学期のゴールデンウィーク明けから遠隔授業を実施し、秋学期も主に遠隔授業での実施となりました。しかしながら、卒業論文、修士論文研究実施のための最低限の校内立ち入りは許可されました。学生たちは卒業論文、修士論文研究を遂行し、卒業論文発表、修士論文発表はオンラインで実施されました。大学での対面での教育研究活動が大きく制限を受けておりましたので、従来の対面での横浜三工会研究室対抗ドッジビー、2年生歓迎会、総会は実施せず、OB/OG会はオンラインで行いました。さらに、2020年度につきましても2019年度と同様に卒業式の式典は中止され、卒業証書、修了証書の授与は、小教室で時間を指定し、個別に近い形で行われました。当日の学生による謝恩会も残念ながら取り止めとなりました。

2021年度は春学期より大人数（100人程度）以外の授業は主に対面で実施されており、1年ぶりに常盤台キャンパスに学生が戻ってきました。また、2021年9月1日より横浜市立大学及び同附属病院のご協力を受けて、本学キャンパス内での新型コロナウイルスワクチン接種（大学拠点接種）を実施することになりました。秋学期には完全に元に戻るの難しいかも知れませんが、できるところから横浜三工会の活動を活性化させていきたいと存じております。今後ともOB/OGの皆様のより一層のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

横浜三工会の新体制の提案について

横浜三工会の発足以来会長にご就任いただいております、上ノ山周会長がご退任の意向を示され、2021年6月より執行役員会で指名されました塩沢副会長が会長代行として取り組んでおられます。現在の塩沢会長代行と岡田副会長、執行役員とで、今後の横浜三工会の運営のための新体制について2021年度の総会において右図のように提案させていただきます。

提案内容ですが、まず、現在の執行役員を執行役員と役員に分け、新たな「執行役員会」を図1のように会長、副会長、執行役員で構成し、基本計画の立案、予算の承認を行います。また、改組後の「役員会」は、執行役員にその他の役員と学生役員を加える形で構成し、基本計画に沿った具体的計画の立案、承認、全体調整を行います。さらに、横浜三工会の中に、総務委員会、広報委員会、学生支援委員会を組織し、以下の表1のような構成員と役割で活動を行っていくことを考えております。

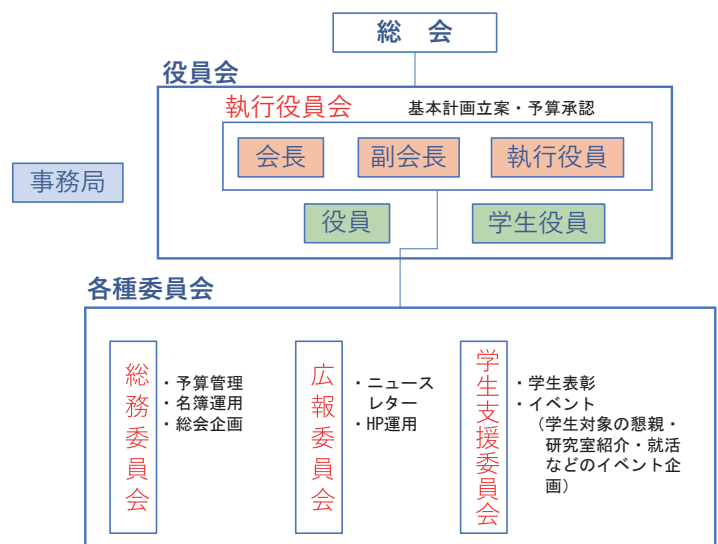


図1 横浜三工会の新たな組織図(案)

表1 新体制を構成する各種委員会、構成員と担当内容

名称	構成員	開催頻度	内容
役員会	会長、副会長、執行役員、役員	2回程度	・基本計画に沿った具体的計画の立案、承認、全体調整の確認
執行役員会	会長、副会長、執行役員	4回程度	・基本計画立案、進捗確認、意思決定（基本計画に従って各委員会が活動して、委員長は執行役員会にて報告、提案、意思決定を仰ぐ）、予算承認
総務委員会	委員長は執行役員から選任 委員は役員から選任	4回程度	・会計管理、名簿運用管理、総会企画
広報委員会	委員長は執行役員から選任 委員は役員から選任	4回程度	・HP 管理及び更新、ニュースレターの企画及びマネジメント
学生支援委員会	委員長は執行役員から選任 委員は役員、学生役員から選任	6回程度	・学生表彰、イベント支援（学生役員との調整、アドバイス、EP 配属オリエンテーション、研究室紹介、OB/OG 説明会などの就活支援イベントやドッジビー大会などのレクリエーション活動支援）

横浜三工会の新体制の役員と委員会構成委員の提案について

上記の新体制の提案に関連して、以下のように役員名簿(案)と各種委員会構成委員(案)を提案させていただきます。

表2 役員名簿(案)

会長	塩沢文朗(若尾・飯田研究室 学士 ⁷⁵ 、修士 ⁷⁷)
副会長	古賀雅隆(浦野研究室 学士 ⁸² 、修士 ⁸⁴)、岡田佳巳(大矢研究室 学士 ⁸⁴ 、高橋研究室 修士 ⁸⁶)、西尾匡弘(池田・若尾研究室 学士 ⁸⁵ 、修士 ⁸⁷ 、博士 ⁹⁰)、岡泰資(化学応用 EP 代表)、平塚和之(バイオ EP 代表)
執行役員	荒牧賢治、岡崎慎司、笠井尚哉、亀屋隆志、光島重徳、三宅淳巳
役員	吉川直人(大矢研究室 学士 ⁸⁶)、石川義彦(上原研究室 学士 ⁸⁹ 、修士 ⁹⁵)、鈴木匠(太田・神谷研究室 学士 ⁹¹) 市川 裕紀(光島・松澤研究室 学士 ¹² 、修士 ¹⁴)、伊里友一朗、伊藤大輔、鈴木市郎、新田見匡、中村一穂、松澤幸一、三宅祐一、
学生役員	浅野大地、飯島みずき、井口喜一郎、石田泰基、石塚誠、板垣和寿、小野寺晃大、河合康太、竹永優、中浜美月、中村美仁、林優也、古田梨菜、松川和幸、山崎誠

表3 各種委員会名簿(案) ○ 委員長

総務委員会	○岡崎慎司(会計)、荒牧賢治(名簿)、鈴木市郎、中村一穂、吉川直人
広報委員会	○笠井尚哉(ニュースレター)、石川義彦、伊藤大輔(HP)、松澤幸一(HP)、
学生支援委員会	○亀屋隆志、伊里友一朗(教務委員)、市川裕紀、鈴木匠、新田見匡(教務委員)、三宅祐一

卒業生だより

以下の3名の方から、卒業生の便りをいただきました。

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 北上祥太郎様

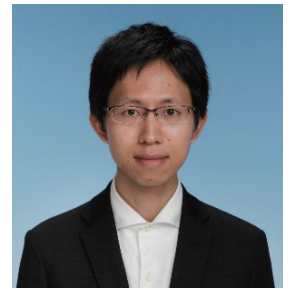
2015年3月に笠井研究室を卒業しました北上祥太郎と申します。学生の時に石油タンクの腐食に関わる研究を行っていたことがきっかけで、卒業後は独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)に入構し、国家石油備蓄事業を統括管理する部門の担当になりました。備蓄事業と聞くと、原油を貯蔵しているだけで特にアクティブな仕事ではないという印象を持つと思いますが、実のところは、施設設備の経年劣化との戦いが日々繰り返しております。最も古い基地では建設から約40年が経過している一方で、漏油トラブルを起こさず安全かつ緊急事態には速やかに備蓄している原油が放出できる万全の体制を整えておかなければなりません。腐食をはじめとした様々な経年劣化が、基地機能に影響しないように年間数千件の総額数百億円分の修繕維持工事の発注と管理を行っており、(最近ではコロナ禍により大分減りましたが)全国の基地と東京本部を行ったり来たり。当初抱いていたイメージと全く異なるほど忙しい日々の中で少しずつエンジニアとしてのマネジメントを学ばせていただいております。今年の4月から、カーボンニュートラル推進本部に異動になり、備蓄基地の脱炭素化に向けた検討を担当しております。単なる基地の省エネ化だけではなく、基地で発電した再生可能エネルギーや燃料電池のみで操業できるような設備投資のロードマップ策定や今後需要が低下する原油の代わりに水素やアンモニアといった脱炭素燃料を、既存のアセットを活用して安全に貯蔵できるかどうかの技術課題の整理も行っています。大学を卒業した現在も横浜国立大学の先生皆様には、様々なお仕事でお力添えをいただいております。恩師と一緒に備蓄基



地に現場調査として出張したり、意見交換をさせていただく機会が、仕事の中で特に嬉しい瞬間だったりします。激動のエネルギー業界ですが、エネルギー安全保障を担う備蓄事業の未来やあるべき形を考えていきたいと思います。

JFE スチール株式会社 東日本製鉄所 滝口頌平様

はじめまして。このような場で寄稿させていただき、嬉しく思います。2018年岡崎研究室修士卒、現在はJFEスチールの東日本製鉄所で、約3年半の勤続になります。これまで工場エンジニアとして設備工事など改善業務に取り組んできました。その中で特に『データサイエンス (DS)』という新技術が、研究開発から実機化へ組み込まれるトレンドを強く感じています。DSについては、目的変数を導出するためのツールとして、従来技術よりも精度向上が期待できます。機械学習の判定基準はブラックボックスのため、検証が難しいという点があります。一方で人による理論モデルよりも簡易に、速くモデリングできる大きいメリットがあります。また画像や動画を利用した「物体検出」技術は、ここ数年で飛躍的に進化しています。検索をかけてみると多くの事例がヒットするように、今後は様々な検査・管理の手法として、より広く活用されることでしょう。実際に自分の業務では、製品の検査工程で画像AIの活用可否を検討していました。



実は欠陥検査の基本は、検査官による目視判定です。それだけ鉄鋼分野の疵検査は機械化が難しい分野なのです。そして鉄鋼製品の欠陥は、引っかけ疵、押込み疵、スケール疵、圧着疵など、案外多くの種類があります。例えば引っかけ疵は、健全部はスケール肌・疵部は鋼の地金が出るため、比較的見つけやすいものです。問題は圧着疵という、圧延加工中に表面に噛み込んでしまった欠陥です。健全部・疵部ともにスケール肌で同色となるため、目視での発見が難しく、さらに既存技術でも自動検出が困難で、長年の課題でもあります。これに画像AI技術を適用することで、検出困難な欠陥の特定可能性を検証してきました。当初は検出率も低く、さらに過検知が多いと問題だらけでした。その中でカメラなど光学系の検討、教師データとなる画像の精査、オブジェクトクラス（検出したい対象）の細分化・データ数の増加など膨大な基礎データ収集と試験を繰り返し、実機化への目処を立ててきました。特に難しいと感じた点は、学習方法と試験方法を確立することです。評価の仕方が誤っては取り返しがつかなくなるので、相当に慎重に取り組みました。今後様々なプロセスの自動化が進んでいく中、その基礎となる画像認識技術を扱えたのは、貴重な体験でした。昨今はワクチン接種も進み、流行中の肺炎も落ち着いていくことでしょう。今しばらくの辛抱と思いますが、ともに乗り越えていきましょう。

ENEOS 株式会社 中央技術研究所 大澤友紀子様

2015年に環境情報学府修士課程（平塚・尾形研究室）を修了した大澤友紀子と申します。修了後、現在のENEOS（株）に入社し、横浜市・本牧にある中央技術研究所でバイオ素材の研究開発を行っています。

さて、今回卒業生便りを書かせて頂くということで、入社してからの業務を少し紹介したいと思います。ENEOSというと、まず石油の会社をイメージするかと思います。もちろん石油の精製・販売が主な事業ですが、そこから派生した機能性素材という分野も事業の1つに有しており、私は入社してから現在までバイオ関連の機能性素材の研究開発に携わっています。最初の配属では、「培地」という細胞を培養するための栄養源や足場となる素材の開発を行っていました。主に、米国の関連子会社が研究と製品開発を担っていたため、1か月ほど技術習得に行き、日本で新たな用途向けのラボを立ち上げるなど、入社当初から貴重な経験をさせてもらいました。そして、現在は、微生物からの有用物質生産に関する研究開発に携わっています。主な製品としては、「アスタキサンチン」というサケやエビ等の赤色の色素を、微生物の培養により生産し、養殖魚等の飼料として販売しています。研究では、生産性を上げるための育種や遺伝子組み換え等による菌株改良の他、色味以外の機能性を探索するためのデータ取り等を日々行っています。



昨今のコロナ禍で皆さまも学業や研究活動等、不自由な状況が続いているかと思います。企業の研究においても、テレワークを取り入れながらの研究遂行が求められ、会議や研究発表イベント等もオンライン化するなど、従来と異なる働き方になっています。全社的には、以前からデジタルトランスフォーメーション (DX) 推進に取り組み始めていましたが、このような状況と相俟って、取り組みが加速したように感じます。大きな例では、製油所においてAI技術による装置の保安や自動運転等による安定かつ効率的な操業を目指した“プラントスマート化”の検討も進められています。他にも様々な事業領域でAI技術の活用等が積極的に検討されています。コロナ禍により困難に直面したことも多くありますが、考え方を大きく変える転機ともなったと感じています。様々な挑戦が今後の技術・社会の発展に繋がっていくものだと実感し、日々前進していきたいと思っています。

化学応用 EP 研究室紹介

現在の化学応用 EP を構成する研究室を以下に紹介させていただきます。
なお、EP とは Education Program(教育プログラム)の略です。

雨宮研究室 テーマ：細胞の生物学的振動の研究

がん細胞や脳細胞、真核生物のモデルである酵母細胞を対象として、エネルギー代謝の過程でみられる細胞内の代謝産物濃度の時間・空間的振動や細胞間の同期現象のダイナミクスを理学的に研究し、その工学や医療への応用を目指しています。

大矢研究室 テーマ：洗浄と洗剤の科学

地球環境と情報生活場面から各種産業に至る広範な分野の「洗浄」に関して、汚れの除去メカニズムの解明と種々の分野での汚れ定量法の開発や新たな洗浄技術の開発を目指して取り組んでいます。

岡崎研究室 テーマ：分布型化学物質計測技術の高度化を目指したセンサデバイスの開発

水素を安全に扱うため、Pt/WO₃ 薄膜の水素に対するガスクロミズム現象を利用したエバネッセント波吸収型光ファイバ水素センサや水素の触媒燃焼熱を光ファイバグレーティングで捉える多点型水素センサを開発しています。また、材料の化学的劣化現象（主に腐食）に関わる研究にも注力しています。

亀屋研究室 テーマ：化学物質を環境安全に配慮しながら使っていくための仕組み作り！

環境汚染が心配なたくさんの化学物質を、私たちの健康や生態系に配慮しながら使っていくためには、どんな要素技術や基盤情報が必要か、社会や関係者にどんな仕組みを求めるかについての研究に取り組んでいます。

高橋研究室 テーマ：社会インフラを支える構造材料の強度信頼性向上技術

エネルギー機器、社会インフラ等で用いられる構造材料の安全性向上に貢献するため、レーザーピーニング等の表面改質処理、窒化等の熱処理により、金属材料の疲労強度を向上する技術の開発の研究を行っています。

羽深研究室 テーマ：半導体結晶生産プロセスの解析・設計・開発

化学工学、特に反応工学を活用して、半導体シリコン (Si) と半導体炭化珪素 (SiC) の結晶を生産する技術を対象に化学反応装置と化学反応条件を研究しています。

光島・黒田研究室 テーマ：水素社会実現のための革新的エネルギー変換デバイス・材料開発

アルカリ水電解、固体高分子形水電解、エネルギーキャリア(トルエン)の電解水素化、有用物の電解合成、固体高分子形燃料電池 (PEFC) に関して、電気化学工学や無機材料化学の観点から新技術の開発を進めています。

吉武研究室 テーマ：ナノメートルレベルでの物質の構造制御

ナノメートルレベルの構造規則性を持つ物質を調製、その構造と物性を詳細に検討し、それらの構造特有の性質を解明するための研究を行っています。

金井研究室 テーマ：機能性材料の創生

ソフトマテリアルを用いた新しい機能性材料の開発を行っています。例えば、マイクロ流体デバイスを用いて新しい機能性エマルジョンや微粒子を作製する研究です。また、コロイド結晶と高分子ゲルを複合化させたチューナブルコロイドフォトニック結晶の研究を行っています。

荒牧研究室 テーマ：分子集合体構造を利用した素材開発

界面活性剤や脂質などの両親媒性分子集合体およびそれらに超分子集合体を組み合わせた系のマイクロ構造とソフトマターとしての物性を研究しています。

岡研究室 テーマ：性能評価のためのアセスメントツールの開発とその評価

予期せぬ事故の発生および被害拡大を最小限に抑える事を課題とし、防火分野、特に火災感知器の作動あるいは迅速な避難行動、消火・救助活動に影響を及ぼす熱気流の流動性状および煙制御を主としたテーマを研究対象としています。

奥山研究室 テーマ：気液相変化系熱流体の新機能の提案

熱により発現する熱流体の新しい機能を活用した高熱負荷面の除熱冷却手法の開発や熱輸送原理の提案、多孔質構造を利用した化学再生による液体燃料からの水素製造法など、従来性能を大きく凌駕する冷却・熱輸送促進技術や新たな流体・熱・反応プロセスの開発を行っています。

澁谷研究室 テーマ：機械システムのリスクアセスメント

現在でも不明な点が多いナノスケールでの破壊現象の解明に取り組むとともに破壊予知をベースとする新しい構造健全性評価手法の開発に取り組んでいます。

中井研究室 テーマ：環境疫学・曝露評価・環境健康リスク評価

身の回りの環境問題などによる健康影響を調べる手法の一つである環境疫学、中でも曝露評価、そして対策に繋がる健康リスク評価などを中心に研究を行っています。

本藤研究室 テーマ：持続可能な未来のためにエネルギーを考える ー政策指向の文理融合研究 ー

エネルギー技術の導入が自然環境や社会経済に与える影響の評価や、エネルギー・環境問題に関する人々の意識や行動の分析などに関する研究を行っています。

三宅(淳)・伊里研究室 テーマ：エネルギーシステムを制御する安全の科学技術

持続性を備えたエネルギーシステムを制御するための安全の科学技術体系構築を目標に研究を行っています。研究領域はエネルギー物質の化学反応論から、エネルギーシステムの社会実装におけるリスクマネジメントまで多岐にわたります。

笠井研究室 テーマ：先進的材料損傷モニタリング技術の開発

腐食損傷や疲労損傷の材料損傷のメカニズムの解明とそれらを精度良く検出・評価することができる先進的モニタリング技術の開発を行なっています。

熊崎研究室 テーマ：化学物質・化学反応をより安全に制御する

化学反応の暴走反応の解析を通じた制御、新規高エネルギー物質の開発や安全利用のための評価技術を研究しています。また、安全工学を広く捉え、安全管理技術の概念化にも取り組んでいます。

中村研究室 テーマ：分子からプロセスまでマルチスケールの分離システムの創製

水問題を解決するため、界面化学を切り口にした分離材料、細孔モニタリング技術、運転・制御の技術の開発を行い、固液分離や膜分離プロセスの飛躍的な高度化を行っています。

新田見研究室 テーマ：複合微生物の制御によるシステムの機能改善

生物化学工学を基盤として生物システムの機能の改善を目指した研究を行っています。研究対象とする生物システムは多種多様な微生物で構成されるシステム（複合微生物系）です。

松澤研究室 テーマ：グリーン水素社会に貢献する機能性材料の創製

電気と化学エネルギー間の相互変換を利用したエネルギー貯蔵・利用技術を研究対象とし、具体的には燃料電池と水電解の電極材料の開発及び電極反応の基礎的解明を行っています。

松宮研究室 テーマ：湿式精錬とイオン液体電析の連携による希少金属回収技術の開発

廃希土類磁石からの希土類元素（Nd,Dy）の回収を目的としており、「湿式精錬技術」の中核にDGA系列の抽出剤を有効活用した溶媒抽出法を新たに導入することで、Dyを先行分離する革新的分離技術の確立を目指しています。

三角研究室 テーマ：「ミキシング技術」反応器を自在に操る技術

液相プロセス産業の中核を担う攪拌槽型反応器について、プロセスの成否に直結する攪拌羽根まわりの流動状態、混相流現象、呈色中和反応、結晶化現象などを、レーザーや高速度ビデオカメラ、画像処理プログラミングを駆使して定量化するとともに、これらの数値流動解析技術の開発を進めています。

三宅（祐）研究室 テーマ：化学物質の曝露・リスク評価とリスク低減技術開発

残留性有機汚染物質を中心に、臭素系・リン系難燃剤、フッ素系界面活性剤など幅広い環境汚染物質を対象として、化学物質の曝露・リスク評価とリスク低減技術開発を行っています。

相原研究室 テーマ：低炭素化社会の実現に貢献する熱の有用利用とグリーン水素システム

脱炭素化社会実現のため①水蒸気やアルコールの省エネ分離膜の開発、②高温廃熱用の化学蓄熱プロセス③風力利用のグリーン水素製造システムなどを現在研究対象としています。

化学応用 EP のホームページ <http://www.cap.ynu.ac.jp/> も参照ください。

バイオ EP 研究室紹介 現在のバイオ EP を構成する研究室を以下に紹介させていただきます。

栗原研究室 テーマ：“生き物” から学び、“生き物の力” を利用する

専門分野：分子生物学、哺乳類遺伝学
 キーワード：分子生物学、生殖細胞、生物工学

武田研究室 テーマ：微生物と天然高分子に学ぶ

専門分野：応用微生物学、応用生物化学
 キーワード：複合糖質、応用生物化学

平塚研究室 テーマ：植物の機能を利用したものづくりと環境技術

専門分野：応用分子細胞生物学、植物遺伝子工学、植物病理学
 キーワード：遺伝子工学、分子細胞生物学、植物工場、植物保護、環境負荷低減、物質生産、創薬

福田研究室 テーマ：再生医療のための移植組織をつくる

専門分野：医工学、生物工学、化学工学
 キーワード：再生医療、ティッシュ・エンジニアリング、微細加工、マイクロデバイス

飯島研究室 テーマ：工学で未来の医療をつくる

専門分野：生体関連化学、医工学、再生医療
 キーワード：再生医療、動物実験代替法、がん

尾形研究室 テーマ：生命現象の理解を通して持続可能な地球環境の創製を目指す

専門分野：遺伝子工学、動物実験代替法、分子細胞生物学、環境科学
 キーワード：DNA 修復、動物実験代替法、遺伝子工学、分子細胞生物学

鈴木（敦）研究室 テーマ：遺伝情報伝達メカニズムの理解を目指して

専門分野：発生遺伝学、生殖生物学、腫瘍生物学
 キーワード：ほ乳類の精子・卵形成、不妊症、精巣癌、卵巣癌

バイオ EP のホームページ <http://www.bio.ynu.ac.jp/> もご参照ください。

理工系学部創立 100 周年記念事業

理工系学部・大学院がその前身である横浜高等工業学校の発足から数え、2020年、100年となることを祝い、幾つかの記念事業が展開されています。猛威が衰えない新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、記念式典は1年延期となり2021年11月20日(土)に、横浜国立大学内 教育文化ホールでの開催となりました。写真は事業により整備された名教自然碑周辺。



活動報告

第4回横浜三工会主催のOB/OG会を開催!!

2020年11月21日(土)に第4回目のOB/OG会を開催しました。前年度までは対面で行っていましたが、今年度は新型コロナウイルス感染予防のためオンラインで行いました。レクリエーションでは、チーム対抗のクイズ大会を行い、大いに盛り上がりました。またグループでの歓談を行い、OB/OGの皆様から就職活動に向けてのアドバイスをいただいたことで、学生にとって大変有意義な時間になったと思います。オンラインでの開催は初めての試みでしたが、遠方の方を含め多くのOB/OGにご参加いただき、楽しく交流する場となりました。

横浜三工会主催 3年生向けの研究室配属説明会を開催!!

2020年10月2日(金)に化学応用EP・横浜三工会共催化学応用EP研究室説明会をオンライン形式で開催しました。本イベントは2020年度研究室に配属される3年生へ向けて、学生から研究室のプレゼンテーションを行う企画であり、70名を超える3年生が参加しました。3年生は間近に迫る研究室配属へ向けて、先輩方の説明に耳を傾け、質問していました。



化学・生命系学科化学応用EP/バイオEPの学位授与式を開催!!

2021年3月25日に化学・生命系学科化学応用EP/バイオEPの学位授与式を執り行いました。その際、化学応用EPでは卒業論文審査会におけるベストプレゼンテーション賞を3名の学生に、グッドプレゼンテーション賞を11名の学生に贈呈しました。バイオEPでは、最優秀学生賞を1名の学生に、優秀学生賞を2名の学生に贈呈しました。

会計報告について

コロナ禍のため、2020年度の横浜三工会の総会を開催しませんでしたので、2019年度の会計報告はございません。2021年11月6日開催の横浜三工会総会で、2019年度と2020年度の会計報告を予定しておりますので、来年度のニュースで一括して報告させていただきます。

本会教員の異動について

2020年度から2021年度に関する教員異動について報告させていただきます。

- 2021年3月31日付けで大谷英雄教授が定年退職され、2021年4月1日付けで、名誉教授の称号が授与されました。
- 2021年4月1日付けで伊里友一朗助教が准教授に昇任されました。
- 2021年6月1日付けで三宅祐一准教授が着任されました。
- 2021年6月5日に関根和喜元教授がかねてからのご病気によりご逝去されました。

OB/OG 役員、学生役員の募集!!

横浜三工会はOB/OGと学生のボランティアで運営しており、平日の夜にみなとみらい駅周辺で会議を開催しています。(会議後、懇親会を開催しています。コロナ禍中では、リモート会議です。) つきましては、ボランティアとして横浜三工会の運営にご参画していただけるOB/OG、学生の方は、以下の事務局までご連絡いただきたく何卒よろしくお願ひ申し上げます。

横浜三工会事務局

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5

横浜国立大学理工学部化学 生命系学科化学応用 EP/バイオ EP 内

TEL : 045-339-3991, FAX : 045-339-4012, E-mail : sanko@ml.ynu.ac.jp

<https://sankou-kai.ynu.ac.jp/>

<https://www.facebook.com/groups/ynusankoukai/>